

決算認定審査における 理事者質疑と委員会の 審査意見

一の橋バイオビレッジ

一の橋は今、移住者の方も多く高齢化率は下川市街地よりも低く、住民も入れ替わり意識も変わってきている。今後行政が大きく関わり何かを作る計画はない。椎茸やイチゴといった特産品も生まれているので、それらをかけ合わせるアイデアをもとにして、特産品を開発していく。新たな産業などを進める前には、地域住民に説明をしてその声を吸い上げていく。

審査意見

山びこ学園と戸田建設株式会社による農福連携や特用林産物である椎茸栽培、駅力フェイチノハシの有効活用など多様な方法で集落機能の維持に努めていただきたい。

町長独自の政策

令和6年度は医療費助成を高校生まで拡充、中間支援組織を設立、小中学校のタブレット更新、教員住宅の建設、歯科診療所誘致と独自の事業を行ってきた。行政告知端末の廃止は苦渋の決断だったが後世の負担は軽減できたと思う。交付税が歳入の半分を占める構造であるが、政策と財政のバランスをはかり今後も政策を進めていく。

審査意見

限られた財源の中で高校生までの医療費助成拡充や人材確保、移住定住・産業支援、空き家対策などに取り組む一般財団法人しもかわ地域振興機構（しもかわ財団）の設立など評価できる。一方で、町民の中にはより生活に密着した施策を求める声もあり、広く町の声を聴く機会を設けるなど町民のニーズを把握し、より一層満足度を高める施策の実現に努めていただきたい。

人材不足の解消

福祉・医療分野での人材確保は外国人の採用についても情報収集を進めるよう指示している。外国の方は文化・習慣がかなり違う場合があるので、地元の住民もそれに馴染む必要がある。有害鳥獣駆除のための人材の確保は、地域おこし協力隊に限らず募集する予定である。資格を取った人に限らず、全ての移住者には、起業や就職など地元の方や企業に協力していただき、なるべく下川町に残っていただきたい。

審査意見

少子高齢化と人口減少に伴う人材不足の問題は、福祉・医療や農・林・商工業などのあらゆる分野や産業において深刻で早急に解決すべき課題である。福祉医療連携会議や産業振興審議会、しもかわ財団、商工会など多様な主体が情報共有と連携を図り、外国人も含めた人材の確保に努めるとともに、各分野での事業規模の縮小も状況に応じて検討するべきである。

五味温泉の運営状況

町は不正会計処理について再発防止・経営改善計画を公社に要請し、経営改善計画は策定され、町に提出されている。また、国の地域活性化起業人制度を活用した外部専門家によるアドバイスも受けている。今後の運営については理事会で検討中であり、使途不明金については、警察が捜査中であり、報告できる状況になったらお知らせしたい。

審査意見

五味温泉の不正会計処理について、議会も重く受け止めており、内部のガバナンスの緩みと会計処理のチェック体制が甘かったことが原因であることは明らかである。町も行政指導や指定管理者の選定など委託側として無関係ではないため、警察の捜査が完了した段階で総括をして適切な対応をするべきである。